



TITLE:

<資料・研究報告>水族館飼育記録

AUTHOR(S):

荒賀, 忠一

CITATION:

荒賀, 忠一. <資料・研究報告>水族館飼育記録. 瀬戸臨海実験所年報
1992, 6: 24-25

ISSUE DATE:

1992-11-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/178880>

RIGHT:

飼 育 記 録

1. 番所崎の地磯で5月1日にヒョウモンダコを採集し、第3水槽室の「危険な動物」コーナーに展示した。

2. 1966年より25年間、414号水槽で飼育中のヤイトハタ(全長117cm, 体重37kg)が5月24日にガス病のため死亡。残る2個体には異常がなく、長期飼育記録を更新中。

3. 229号(磯の生物)水槽で飼育・展示している貝類の同定に便利なよう、7月10日、同槽前に実験所周辺の潮間帯にみられる貝類の普通種41種78点の標本を展示した。

4. 201号水槽の造礁サンゴ類を7月12日に補充。その機会に、この水槽で自然繁殖してサンゴ類に悪影響を及ぼしていたサンゴイソギンチャク10数個体を除去した。

5. 210号水槽で飼育・展示中のトラフシャコは脱皮失敗により7月18日に死亡。飼育期間は6か月20日。

6. 縦長の213号水槽は、水槽上部の空間を利用して、小型のカニを大型種の攻撃から守り、かつ観察しやすいように、75×20×40cmの塩ビ透明板製バット(通称「吊り槽」)を内装している。7月22日より、さらに小型のカニの種別展示用として、20×10×20cmの塩ビ透明板製バット3個をこの吊り槽内の上部にセットし、キンセンガニ・ソデカラッパ・ヒロハイシガニなどを展示した。

7. 226号水槽で1989年6月に生まれたツバクロエイの幼魚は、その後の成長(本報第5巻)により日本動物園水族館協会繁殖表彰規定の条件を満たし、7月29日に同協会より繁殖賞を受賞した。

8. 8月15日、女性観客が227号水槽のアカウミガメにさわろうとして、手を噛まれる事故があったが、幸いに軽い怪我ですんだ。

9. 8月14・18日、富田川下流域で友釣りにより採集したアユ12個体を222号水槽に展示した。付着藻類を主食とする天然アユは

人工餌料を食べないであろうという予想に反し、収容後間もなく自家製練り餌に餌就きした。その後、太田技官の発案により、付着藻類の代用食として、テトラドログリーン(藻食性魚類用のペレット状配合餌料)を水で溶いて表面の滑らかな石に塗り付け、生乾きの状態で水槽底に沈める方法で、この配合餌料をよく摂るようになった。

10. 10月14日、南部町堺漁港より、刺網にかかったサツオミシマ(全長45.5cm, 体重3.2kg)を入手した。本種は当館で初めての飼育例である。予備水槽での飼育中、盛んに敷砂を掘る潜行動が観察された。

11. 227号水槽(カメプール)でのウミガメ類の飼育・展示を11月18日より中止し、アオウミガメ2頭・アカウミガメ1頭は海に放流した。その後、12月上旬にかけて、第4水槽室から大型魚類を移すのに備え、水槽内外の整備を行った。

12. 12月6日、町内江津良漁港内水深1m弱の砂底でトゲヨウジ(全長21.5cm)を採集し、307号水槽に展示した。当館における本種の入手例はこれまで、流れ藻や巾着網など沖合の表層からのものに限られており、このような内湾の浅所での採集例は初めてである。

13. 周参見町沖で刺網にかがったオオカイカムリ(甲幅16.9cm, 甲長13cm, 体重1.9kg)を入手。これは当館飼育例の最大個体である。12月7日より212号水槽で飼育・展示中。

14. 1988年8月より一般公開を中止している414号水槽の大型魚を101号・227号両水槽に移して、展示を再開した。この作業は魚体の損傷を防ぐためにエチルグリコールモノフェニルエーテル麻酔下で行い、その機会に各個体の全長と体重を測定した。最長麻酔時間は28分におよんだが、どの魚も移転先の水槽ですぐに覚醒し、麻酔剤の副作用は全く認

められなかった。主な大型種の測定値は次の
とおり。

入槽年	当時の全長 (cm)	今回の測定値	
		全長 (cm)	体重 (kg)
ニセゴイシウツボ			
1985	100	138	11.8
ツチホゼリ			
1964	17	77	15.1
ヤイトハタ			
1966	33	130	34.3
1966	35	126	35.3
ゴマフエダイ			
1984	8	78	8.9
スギ			
1986	100	155	27.8
1986	75	148	25.3
1987	60	130	17.3

水槽室関係設備機器の改修

1. 自家発電装置のラジエーターに漏水があり、4月23日に応急修理した。原因は塩害による腐蝕。この発電機は5月20日に分解点検を行った。

2. 7月17日、218号水槽の観察面ガラスが破損した。原因はウニの食害により防水コーキングが損傷し、漏水によりガラス支持材に歪みが生じたためと思われる。

この水槽のガラスは8月21・22日に取替え、ウニの食害を防ぐために、防水コーキングの表面を塩ビ板で覆った。

3. 229号水槽の造波装置はこれまで、モーターの回転を上下運動に変換して、造波用の逆三角形フロートを動かす方式だったが、フロートの動きにブレが生じ、フロート軸の褶動部分がよく痛んだ。この欠点を解消するた

め造波用フロートをエアピストンにより上下さす方式に改め、新造波装置は9月21日より運転を開始した。

4. 大型冷凍庫のコンデンサーを10月30日に更新した。

5. 11月18日、101号水槽保温用ヒートポンプの膨脹弁が故障。部品調達に時間がかかるため、年末までこの大水槽は第2水槽室保温用の温水ボイラーを併用して保温した。

6. 第2水槽室2号送風機のギア部分が故障。メーカーに送って、12月2日に復旧した。

7. 12月3日、307号水槽(総ガラス製)の底面ガラスに亀裂が生じ漏水。原因はコンクリート架台の老朽による歪みと考えられる。亀裂部分に塩ビ板をシリコンシーラントで接着して補修した。(荒賀忠一記)